

ですね、みんながうんというのでいろいろな事があるのですよ。警察が造った風速計、事故の調査員がつけた風速計、JR東日本が独自につけた風速計、まるで、ここを通ってみると風速計の陳列会ですよ。いろいろな種類がある。しかし、これ全てにわたって欠落しているのが、先ほど言わされた、ゾーンとしての考え方なのです。それが決定的に欠落しています。何故かすぐにわかります。みんな風速計をつければ良いと言っているからみんなで風速計をつける。風速計すらつけていなかったのかといふと、ちゃんとつけていたのですよ。その橋の酒田側の所にちゃんと危ないからと言って、風速計をつけていてその時のデータはその時の規準以下の数値しかないから、それがあっても鉄道はそのまま走ったのです。だけど、すごいですよ。脱線したこの時の運転手は最高速度、完全な直線ですので120キロが最高速度だというのに、ここまで来る間にもう1時間も遅れちゃっていたのです。それで酒田の駅で止まって、今から出発する前に7時のニュースか何かを聞いたのですね。もう1時間遅れているのですよ。そうしたら、ここは風がきついというのを、ラジオで聞いたか、何で聞いたかで、自分で判断して105キロに落として走っているのです。だから、ものすごい安全側に自分の判断でやっているのです。それでも吹っ飛ばされて、あれは完全に突風にやられたのですが、でも大事なのは、それだけやっても飛ばされる時は跳ばされるという事なのですね。そうすると、この線の周りにどんなにたくさん風速計をくっつけて何をやっても、線の情報では意味がないということなのですよ。線の情報をどんなに集めてもこの面の情報にはならないでしょう。ですから、先ほど言われたような、次に国土交通省がやる時は絶対に線上の情報だけで考えちゃ駄目で、きちんと面の情報をとのに何をしたらいいかということをやらないといけないのです。そして、今、面の情報はお金を払うと相當に気象いろいろな事が加工したものできちんと出てきます。この×のとおりにいっているのが、今度同じ線の上に、これは後から見てこれが出ているのですが、このとおりのものがここからここまで7分の間で通過しているのですが、国土交通省が設置した風速計の最高速度が時速36メートルと出ているのがわかります。脱線までの

この時刻をみると約7分間です。それで、ここをここまで韋駄天が走っていった速度を逆算すると、時速75メートルです。僕が今言っているようなことはどこにも何も出てこないで、大もめの数字だろうから聞いて聞かない事にしておいた方が良いかも知れないけれども、そういう事が起こっています。それで、この所で、落雷が起こっているのですね、ちょうど電車が脱線したその時に落雷が起こっています。今落雷が起こっているというのは、僕がこれを言えるのはなんと今年の3月の末に福島県の半導体の工場に行きました。それでこれは線情報でやつたら駄目だというのを僕はもうわかっていて、みんなにそういう事を言ったので、面情報を使えと。そしてそのゾーンで考えなきゃ駄目だと言った時に半導体の工場の人が、それなら先生これが役に立つかもしれないと言って、見せてくれたのが、彼らの所、半導体の工場というのは落雷が一番怖いんです。送電線が切れるとそれまで作っている製品の10億円とか15億円が全部バーになるので、本当に雷が近づいてくると、非常警戒に入るのですね。近づいてくると30分前から工場はどこを止めてもいいように準備します。それで10分前になると非常電源の移送を合わせるということまで始めて、落雷が起ころともすぐに切り替わるというので、不良が全然でないようにするのです。そういう所まで考えると、こここのゾーンの情報というのを正確にとっていないといけないです。福島県の情報を持っているけど、あなたの所、きっと酒田のもあるだろうから、一緒に探そうということできれいに出てきました。この所でちょうど脱線したその瞬間に落雷が起こっています。こういうのは、今は気象情報をきちんとやって、東北地方の面情報が全部取れるのですよ。そして、半導体の工場は24時間それを常時ウォッチしている人がいるのです。だから、それと同じようにやれば、どこかで自動の警報が出るだろうなんて、ぬるい事を言ってないで、自分たちのゾーン、中部地方なら中部地方の全ての気象の状況を24時間見ている人をきちんとつくって、そして、それは面情報として使うことをやるのが一つです。

もう一つはですね、地球シミュレーターというとんでもないスーパーコンピューターの塊を日本は持っています。世界中で日本